



「沙流太ほおずき絆の会」と「富川高校生」による 食用ほおずき収穫作業

9月25日、沙流太ほおずき絆の会(降幡治男 会長)と富川高校商業科3年生による食用ほおずきの収穫作業が行われました。

日高農業改良普及センター日高西部支所の普及指導員より、収穫時期の目安などについて説明を受け、収穫作業を行いました。

今後も「沙流太ほおずき絆の会」と「富川高校生」で果実の販売やスイーツなどの商品開発を行い、商品化を目指していきます。



日高町建設協会による地域貢献活動 町道の草刈り・清掃作業を実施

9月22日、日高町建設協会(磯田茂 会長)により、地域貢献活動の一環として、富川東・富浜の町道の草刈り・清掃作業を行っていただきました。

建設協会加盟の27社から31名が参加して富川東5丁目の交差点から富浜漁港付近までの道路脇に堆積した土砂の除去や、歩道に生えた雑草の除草作業を行っていただき、きれいな道路で歩きやすく快適になりました。



磯田建設スポーツ振興杯の益金を寄附 子どもたちのスポーツ振興のために役立てて

10月2日、磯田建設スポーツ振興杯実行委員会の磯田勇さんと福岡好三郎さんが役場を訪れ、9月28日に行われた磯田建設スポーツ振興杯チャリティー野球大会の益金など126,600円を教育振興寄附金(スポーツ振興)として町に寄附されました。

大会は今年で6回目となり、地元チームの他、石狩、苫小牧、新ひだか、浦河から約60名が参加して開催されました。

磯田さんは、「子どもたちのためのスポーツ振興に役立てて欲しい」と話されました。



交通安全街頭啓発 ドライバーへ交通安全を呼びかけ!

9月27日、厚賀町の国道235号線沿いで厚賀一致会と厚賀町青少年育成委員会の共催による交通安全街頭啓発が実施されました。

この日は、子どもから大人まで約120名が参加して、交通安全を呼びかけるプラカードや黄色い旗を掲げ、通行するドライバーに「スピードダウン」や「シートベルト着用」などを訴えました。



地震の時は「ダック」のポーズ！～幼児向け防火・防災教育～

消防署では、9月24日に富川ひばり幼稚園(池田義人 園長)、9月25日に門別わかば保育所(大泉初美 所長)で幼児向け防火・防災教育を目的としたカードゲーム「ぼうさいダック」を実施しました。

「ぼうさいダック」は、地震・津波・火事などの災害、挨拶やマナーといった日常の習慣について学べるカードゲームです。子ども達は動物のイラストのポーズをまねして、危険な場面に直面したときの「最初の第一歩(ファーストムーブ)」を身につけます。

子ども達に「ぼうさいダック」を教えたのは、日高消防団の女性消防団員の8名で、子ども達のポーズを覚える早さに驚きながらも、楽しく指導できました。「ぼうさいダック」を使ったカルタゲームや、白いシーツを火災の煙に見立て、火事の時のポーズを取りながら子ども達が煙から脱出するゲームも行いました。

消防のマスコットキャラクターの「消太君」と一緒に楽しくゲームに参加し、2日間とも笑顔いっぱいの1日となりました。

国立日高青少年自然の家がユニフォームを刷新！

国立日高青少年自然の家(佐藤悟 所長)では、このほど、職員のユニフォームであるポロシャツを刷新しました。

今回のユニフォーム刷新は、国立日高青少年自然の家への関心をより高めるための試みの一つとして、職員有志による「ユニフォーム刷新ワーキンググループ」を6月に組織し、デザインを中心に検討を重ね制作しました。

完成したユニフォームは、国立日高青少年自然の家の近辺の日本有数の清流「沙流川」をモチーフに、色はフォーマルなネイビーと涼やかなロイヤルブルーで、襟とマークに特徴を持たせた4種類を製作。新しいユニフォームは利用者や地域の方々からの評判も良く、今後は冬期間に着用するフリースや野外活動等の際に着用するジャンパーも順次刷新していく予定。



佐藤悟所長は、「ユニフォームを刷新したことで、利用者からの好感度が高まることや、職員の連帯感と仕事に対する意欲の一層の向上を期待している。今後も、施設職員一丸となって、利用者サービスのさらなる向上に努めたい。」と話していました。